

平成 30 年度 入学式 理事長挨拶

新入生のみなさん、本日はご入学おめでとうございます。ご家族の皆様、また地元柴田町の滝口町長をはじめとするご来賓の方々、本日はこの入学式にご参加を賜り誠に有難うございます。

今、この場には南は九州から北は北海道まで、学部においては全国 31 の都道府県からの新入生が、また、大学院においては中国等からの留学生の方々も座っておられます。皆さんは同じ世代の若者ではありますが、それぞれ育った環境は異なります。是非、この風光明媚な船岡の地において、同一世代の実りある交流を実践し、仙台大学での豊かな学生生活を実現して頂きたいと思えます。

さて、私からは一人の入学生のことを紹介しつつ、皆さんの大学生生活に対する「道しるべ」を示し、歓迎の挨拶と致します。本日の入学式にはマスコミの取材が数社入っております。それは新入生の皆さんがおられる席の中に平山相太さんが座っているからであります。サッカーを通じた勉学などを目指して仙台大学に入学した諸君も多数おりますが、平山さんは、サッカー界では名前を知らない人は誰もいないと言っても過言でない程、著名なアスリートであります。長崎県の国見高校時代から「怪物」と呼ばれ、190 センチ、85 キロという日本人離れのストライカーとして将来を囑望され、筑波大学に進学後、大学 2 年の夏にオランダに渡ってプロとなり、帰国後は F C 東京を経て最近は大宮ソニーに在籍しました。しかし、東日本大震災時の怪我の発症以降も度重なる怪我に泣き、今シーズン、32 歳で引退を決めるとともに、指導者の道を歩むべく、スポーツ・健康科学を専門領域とするこの仙台大学に入学をされました。

さて、何故、ここで平山さんを紹介したのか、このことを皆さんに考えて頂きたいと思えます。

勿論、他の皆さんよりは 10 歳以上も多く、人生の年輪を重ねているにも拘わらず、再び大学 1 年生として目標を掲げて勉学に取り組むそのことも、大いに敬意を表すべきことであり、そして、皆さんのこれからの学生生活に対して素晴らしい模範となることは言うまでもありません。

しかし、それ以上に申し上げたいことは、スポーツアスリートとしての人生への向き合い方があります。今、「アスリートのセカンドキャリア」ということがよく言われます。すなわち、ひたすら競技力向上と成果の獲得を目指すアスリートの時期を終了した後の人生の送り方、あるいは、対処の仕方についての考え方です。平山さんの今回の仙台大学へのご入学は、アスリート「引退」という区切りをつけ、「セカンドキャリア」形成を目指す、という考え方に立った「人生」を選択することを意味しております。これもまた、世の中のアスリート一般に対して一つの模範例を示していることといえます。

そしてさらに、仙台大学入学後もアスリート継続を目指す皆さんの多くにとっては、アスリート「引退」という区切りをつける以前から、言い換えれば、アスリートの継続と同時並行的に「セカンドキャリア」形成を目指すという考え方も、皆さんの年齢ではあり得る、或いは、皆さんの年齢では目指すべきということ、平山さんの入学が示唆しているということが言えるのではないかとあります。

このように平山さんのご入学は他の入学生諸君にとって、或いは平山さん自身にとっても新たな展望と知見の獲得が期待できるというワクワクするような機会を共有するスタートになって

おります。このことは、受け入れる仙台大学にとっても、「スポーツ・健康科学」の発展の素晴らしいチャンスを与えられたことになり、大歓迎であると同時に、その責任の重大さを自覚し、皆さんとともに、従来にも増して切磋琢磨をしていきたいと考える次第であります。

「スポーツをする」「スポーツを見る」「スポーツを支える」という分類方法も、今、一般に定着するなか、とりわけ「スポーツを支える」という「セカンドキャリア」形成の対象分野としての重要な機能に関し、仙台大学はコーチングに止まらず「スポーツマネジメント」アスレティックトレーニングやストレングス&コンディショニングなどの「スポーツトレーナー」「スポーツ栄養」「スポーツ情報分析」「スポーツメディア」、警備・警護などの「安全・安心」、その他の様々な「セカンドキャリア」形成の途を用意しております。

また、仙台は平山さんが所属したベガルタ仙台のサッカー競技の他に、野球やバスケットボール等のプロ・スポーツ球団が存在しておりますが、仙台大学はこれら球団との間で特に「スポーツを支える」機能について、プロ・スポーツの現場でインターンシップや実践的授業が展開できる「アカデミック・パートナー提携」を順次拡大しております。

これらのことから、仙台大学はまさに「アスリートのセカンドキャリア」を形成するための様々な道具が並ぶ「モール街」であると言えます。皆さんには、この「モール街」のあちらこちらを大いに闊歩して頂きたいと考えております。

今回はさらにもう一つ、仙台大学ではこの「モール街」の音声ガイドというものを用意しました。仙台大学は今年、開学 51 年目を迎えました。昨年、50 周年を記念して幾つかの記念行事を実施しました。今朝、皆さんを出迎えたマスコット・キャラクターもその一つですが、さらに、FM仙台というラジオ番組を利用して仙台大学の教員、特に若手の教員が、大学でどんなことに取り組んでいるのか、それぞれの教員がわかりやすく、かつ面白く解説する十分程度のトーク番組を提供しました。そして、その内容が仙台大学の様々な面を知って頂く手軽な情報となるものであることから、本日、保護者の皆様向けに、録音したCDを用意致しております。他の 50 周年記念グッズとともに、恐縮ながら実費で頒布させて頂いておりますので、キャンパスにお出かけ頂ける機会もなかなか無いのではと存じますので、お子様方の大学での勉学生活の様子を知る「よすが」として、ご活用頂ければ幸甚でございます。

なお、新入生の皆さんには、自分のアイパッドやアイポッドに無料でダビングできるようにしておりますので、通学の行き帰りに好きな音楽とともに、これから、どんな勉学との出会いが待っているのかのガイドとして、これを大いに活用して頂きたいと思っております。

終わりに、今、仙台大学の取組みの一端を紹介しましたが、仙台大学の「建学の精神」は、「実学と創意工夫」であります。入学生の皆さんには是非、特に「創意工夫」を駆使し、大いに様々な「学び」にチャレンジをして頂きたいと思っております。以上を持ちまして、当方の歓迎の挨拶と致します。本日は、ご入学、誠におめでとうございました。

平成 30 年 4 月 4 日

仙台大学設置法人(学校法人朴沢学園)

理事長 朴 澤 泰 治